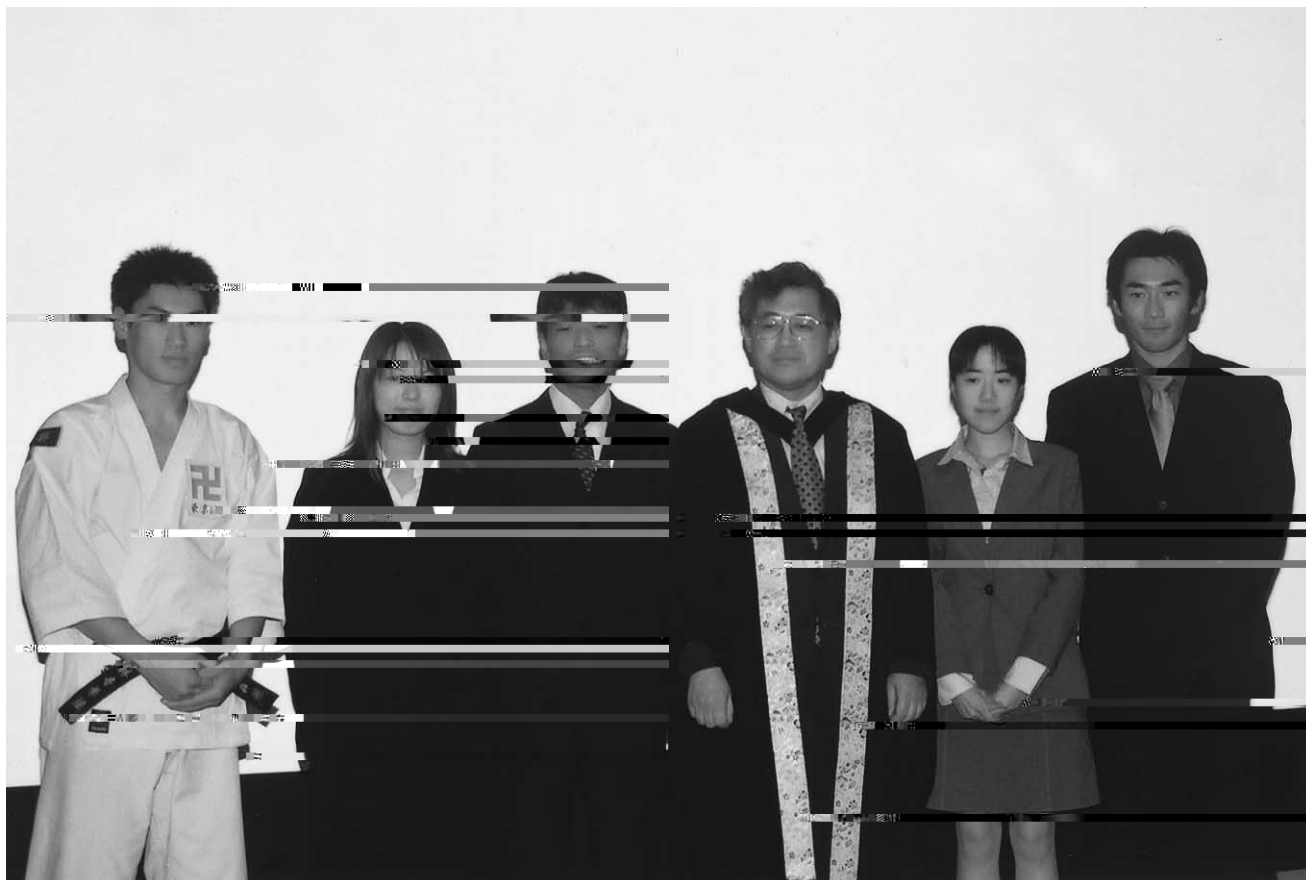


学生表彰「東京大学総長賞」の授与式行われる



総長と受賞者による記念撮影

(3ページに関連記事)

目次

| | |
|---|---|
| 一般ニュース | 2 |
| 部局長の交代、部局長退任挨拶、学生表彰「東京大学総長賞」の授与式行われる、学術研究奨励資金による国際交流助成事業の採択決まる | |
| 部局ニュース | 5 |
| 農学系学生サービスセンター開設される、平成16(2004)年度大学院新領域創成科学研究科入試結果について、平成16(2004)年度大学院学際情報学府修士課程入学試験結果について、国際共同展示「シーボルト | |

| | |
|--|----------|
| の21世紀」展内覧会が行なわれる、宇宙線研究所附属乗鞍観測所創立50周年記念式典開催される | |
| 掲示板 | |
| 「東京大学の生命科学」シンポジウム、「理学系研究科・理学部ニュース」第35巻3号(9月22日)の発行、生産技術研究所千葉実験所公開、コンピュータ・ネットワーク利用セミナーのお知らせ | |
| 事務連絡(人事異動(教官、事務官)) | ... 12 |
| 淡青評論 | 16 |
| 「障害のある学生への授業や実習の“情報保障”」 | |

学術研究奨励資金による国際交流助成事業の採択決まる

国際交流助成事業のうち次の3事業について、以下のとおり助成することを決定しました。

1. 国際交流推進経費助成事業（平成15年度後期）

| 部 局 名 | 代表者職・氏名 | 相 手 機 関 名 | 派遣 者数 | 招へい 者数 |
|---------------|-------------|--|----------|-----------|
| 大学院工学系研究科 | 助教授 佐藤 徹 | シドニー大学（オーストラリア） | 1 | 0 |
| 大学院医学系研究科 | 助手 齋藤 正夫 | ルードビッヒ癌研究所（スウェーデン） | 1 | 0 |
| 大学院人文社会系研究科 | 助教授 尾上 圭介 | 北京日本学研究センター（中国） | 1 | 1 |
| 人工物工学研究センター | センター長 新井 民夫 | The University "G.d' Annunzio", Dipartimento di Scieze, Chieti, Italy アンナ大学環境研究センター（インド） | 1 | 0 |
| 大学院新領域創成科学研究科 | 助手 | | | |

≡ 部局ニュース ≡

農学系学生サービスセンター開設される

農学系学生サービスセンターが10月1日(水)8時30分に開設しました。

農学系では学生サービスの向上の一環で事務部の一部を約2ヶ月間改修し、教務関係事務手続きの集中化、各種掲示物などの情報の一元化を図るとともに学生同士のコミュニケーションや研究・講義の合間を利用してリラックスできるスペースを設置しました。

このセンターのうち、諸事務手続きを行うカウンターをはさんだ学生のためのスペースを「エントランスホール」と称し、このホールには掲示板、証明書自動発行機、カード式複写機などを設置していますが特記すべき点は、講義に関する情報・大学院入試合格発表などの諸情報やニュース・天気予報などリアルタイムな情報を映像やテロップで42インチプラズマモニター2台により学生にお知らせすることです。さらに全学的なものをはじめ本研究科に関する種々の写真やビデオなども逐次放映する予定です。これらのものは電子掲示板専用ソフトウェアによって運用しております。

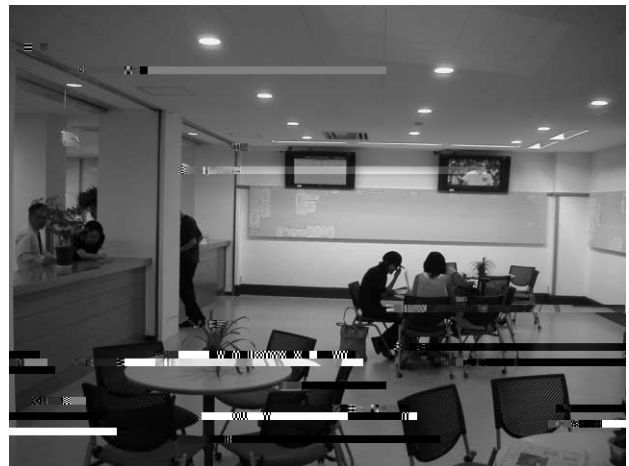
また、開所時間は、業務については9時から1時までですが、ホールは8時30分から21時までと大幅に延伸し利便性の向上を図りました。

同時にセンター職員は名札を装着するとともに新たに「学生相談窓口」を設置し、センター職員が、「迅速かつ的確そして誠意をもって」をモットーに対応することとしました。

なお、ホールの内壁は暫定のもので現在資材調達中です。数ヶ月後には再び工事をを行い完了に至る予定です。



センター入口

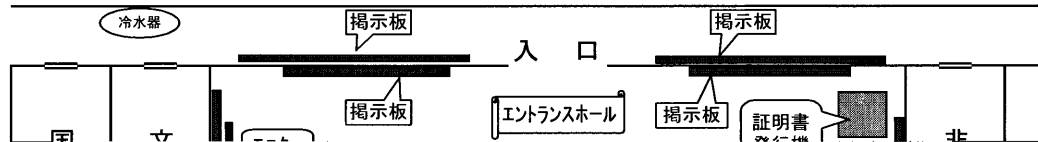


センター内(奥:プラズマモニター)

(大学院農学生命科学研究科・農学部)

略図

正面玄関



平成16(2004)年度大学院新領域創成科学研究科入試結果について

大学院新領域創成科学研究科では、平成16(2004)年度大学院入試を行い、月1日(金)に合格者を発表した。
出願者数、受験者数、合格者数は下表のとおりです。

| 専攻名 | 受入 予定 人員 | 出願者数 | | | 受験者数 | | | 第1次試験合格者数 10月入学者・社会人等特別選抜 (基盤情報学専攻除く)は合格者 | | |
|-----------|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---|-------|------|
| | | 合計数 | 本学 | 他大学 | 合計数 | 本学 | 他大学 | 合計数 | 本学 | 他大学 |
| 物質系専攻 | 23 | 1(1) | 14 | 4(1) | 1(1) | 13 | 4(1) | 13(1) | 11 | 2(1) |
| 先端エネルギー工学 | | | 6 | 1 | | 6 | 1 | 6 | 6 | 0 |
| 基盤情報学 | 14 | 10(5) | (4) | 1(1) | 10(5) | (4) | 1(1) | 10(5) | (4) | 1(1) |
| 複雑理工学 | 13 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 |
| 先端生命科学 | 30 | 2 | 23 | 5 | 2 | 23 | 5 | 25 | 23 | 2 |
| 環境学(全体) | 3 | 0(1) | 4() | 2(11) | 6(1) | 4() | 2() | 55(11) | 3(5) | 1(6) |
| 自然環境コース | 15 | 4(3) | 2(2) | 2(1) | 3(2) | 2(2) | 1 | 3(2) | 2(2) | 1 |
| 環境システムコース | 12 | (1) | 6(1) | 3 | (1) | 6(1) | 2 | (1) | 6(1) | 1 |
| 人間人工環境コース | 1 | 1(5) | 13(2) | 6(3) | 1(4) | 13(2) | 5(2) | 15(2) | 11(1) | 4(1) |
| 社会文化環境コース | 1 | 24(6) | 14(2) | 10(4) | 24(6) | 14(2) | 10(4) | 1(3) | 12(1) | 6(2) |
| 国際環境協力コース | 12 | 14(4) | 6(1) | (3) | 14(4) | 6(1) | (3) | 12(3) | 5 | (3) |
| 情報生命科学 | | | | | | | | | | |

平成16（2004）年度大学院学際情報学府修士課程入学試験結果について

大学院学際情報学府には、平成16（2004）年度修士課程入学試験一次試験（筆記試験）を8月26日（火）に、二次試験（口述試験）を9月1日（月）及び2日（火）に実施し、9月5日（金）に合格者を発表した。志願者数及び合格者数は、下表のとおりである。

| コース | 受入予定 人員 | 日本人 / 外国人 | 志願者 | | | 合格者 | | |
|-------|------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| | | | 本学 | 他大学 | 計 | 本学 | 他大学 | 計 |
| 学際情報学 | 約24 | 日本人 | 21 | 6 | | | 1 | 2 |
| | | 外国人 | 2 | 14 | 16 | 1 | 6 | |
| | | 計 | 23 | 2 | 105 | 10 | 24 | 34 |
| | | 日本人 | 5 | 40 | 35 | 0 | 0 | 1 |

（大学院学際情報学府）

宇宙線研究所附属乗鞍観測所創立50周年記念式典開催される

宇宙線研究所附属乗鞍観測所は平成15年8月1日に創立50周年を迎え、その記念式典が平成15年9月20日(土)に長野県南安曇郡安曇村の乗鞍観光センターにて執り行われた。生憎の雨天にも拘らず、会場には地元関係者、国立天文台乗鞍コロナ観測所関係者、乗鞍観測所に縁のある宇宙線研究者及び事務方等、約130名の方々が記念式典に参加され、大変盛況であった。記念式典は瀧田乗鞍観測所長の司会で進行し、吉村宇宙線研究所長の挨拶に引き続き、ご来賓の桜井国立天文台乗鞍コロナ観測所長、筒木長野県安曇村長(加藤助役代読)、小谷岐阜県丹生川村長よりご祝辞を頂いた。安曇村アルプホルン愛好会によるアルプホルン演奏の後、近藤元宇宙線研究所

あった。翌9月21日(日)、連日の雨天にも拘らず、約50名の方々が標高2,0メートルに設置されている乗鞍観測所を訪問した。今年より環境保全のために交通規制が開始され、自家用車による乗鞍岳アクセスができなくなったことに従い、貸切バス及び許可車両による見学者移動を行った。既に引退なさったご高齢の研究者の方々が青年のように目を輝かせて当時の観測記録を読み耽っていた姿が誠に印象的であった。

(宇宙線研究所)



安曇村アルプホルン愛好会によるアルプホルン演奏

長に乾杯の発声をお願いした。歓談後、安曇村御池龍神太鼓演奏に引き続き、ご来賓の西村元宇宙科学研究所長、喜多元東京農工大学長、荒船大学評価・学位授与副機構長、村木名古屋大学太陽地球環境研究所教授よりご祝辞を頂いた。ご来賓の皆様からのご祝辞は、観測所創立当時の苦労話やエピソード、これまでに乗鞍観測所で得られた世界的研究成果等、多岐に渡る大変興味深いもので



吉村宇宙線研究所長による挨拶

≡ 掲示板 ≡

「東京大学の生命科学」シンポジウム

21世紀にはいり、様々な生物のゲノム解読が進み、生命科学は大きな飛躍の時期をむかえています。東京大学では、10を超える学部、研究所で多様な生命の学問研究が進められています。地球上の生命の多彩なひろがり、不思議から人間の病気、心理学まで、東大の様々な領域の研究者から、最先端の話をわかりやすくご紹介するシンポジウムを開催します。多くの学生、院生、教職員の方の参加を期待します。

(入場無料、一般の方の参加も歓迎します)

場所 本郷キャンパス 安田講堂

日時 12月6日(土) 13:00~1:30

主催 「東京大学の生命科学」シンポジウム実行委員会
(委員長 教養学部長 浅島 誠 教授)

13:00~13:20

一條 秀憲

薬学系研究科 生命薬学専攻 細胞情報学教室

「ストレス応答のシグナル伝達と疾患」

13:20~13:40

宮園 浩平

医学系研究科 病因・病理専攻 分子病理学講座

「TGFシグナルによる幹細胞の分化調節」

13:40~14:00

酒井 寿郎

先端科学技術研究センター・駒場リサーチキャンパス
システム生物学

「LRP5/Wntシグナルと老化；糖・脂質・血管代謝への調節機構」

14:00~14:20

藤原 徹

生物生産工学研究センター 植物機能工学研究室

「ホウ素トランスポーターの単離と応用」

14:20~14:40

太田 秀

海洋研究所 海洋生態系動態部門 底生生物分野

「深海底に化学合成生態系を探る」

14:40~15:00

雨宮 昭南

新領域創成科学研究科 先端生命科学専攻

「なぜ棘皮動物をとりあげるのか」

コーヒーブレイク 15:00~15:20

15:20~15:40

多比良 和誠

工学系研究科・工学部 化学生命工学専攻 生命エネルギー工学講座

「バイオ・医学の世界を変える小さなRNA」

15:40~16:00

山本 雅

医科学研究所 癌・増殖大部門癌細胞シグナル研究分野

「Tob転写複合体と細胞の増殖・分化の制御」

16:00~16:20

石浦 章一

総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系生命機能論

「アルツハイマー病に挑む」

16:20~16:40

山本 正幸

理学系研究科 生物化学専攻

「減数分裂はどのように制御されているか」

16:40~1:00

加藤 茂明

分子細胞生物学研究所 核内情報研究分野

「クロマチン構造と遺伝子発現制御機構」

1:00~1:20

立花 政夫

人文社会系科学研究科 心理学研究室

「網膜における同期的周期的発火と逃避行動」

懇親会 1:30~ 山上会館談話ホール

[連絡先]

「東大の生命科学」シンポジウム事務局

先端科学技術研究センター 分子生物医学分野

事務 土居 内線55230 doi@lsbm.org



- ・半導体級シリコンの製造に関する研究（前田研究室）
- ・問題有害物質気体の分解除去装置の開発
（前田研究室・光田研究室）
- ・既存不適格構造物の耐震補強を推進させる制度と技術
- 途上国から先進国までを対象として -
（目黒研究室）

≡ 事務連絡 ≡

人 事 異 動 (教 官)

| 発令年月日 | 氏 名 | 異動内容 (新官職) | 旧 (現) 官職等 |
|---------|---------|---------------------------------|--|
| | | (辞 職) | |
| 15.10.1 | 谷 島 賢 二 | 辞 職 | 大学院数理科学研究科教授 |
| | | (退 職) | |
| 15.10.1 | 王 葆 | 平成15年 月30日限り任期満了により退職した | 大学院人文社会系研究科教授 |
| " | 李 建 民 | " | 大学院人文社会系研究科助教授 |
| | | (採 用) | |
| 15.10.1 | 高 木 信 一 | 大学院工学系研究科教授 | 株式会社東芝研究開発センターLSI基盤技術ラボラトリー研究主幹 |
| " | 日 暮 栄 治 | 大学院工学系研究科助教授 | 日本電信電話株式会社マイクロシステムインテグレーション研究所装1部主任研究員 |
| " | 陳 弱 水 | 大学院人文社会系研究科教授 | 台湾中央研究院歴史語源研究所副所長 |
| " | 村 越 隆 之 | 大学院総合文化研究科助教授 | 日本医科大学薬理学講座助教授 |
| " | 竹 野 太 三 | 大学院総合文化研究科助教授 | 世界銀行コンサルタント |
| " | 二 通 信 子 | 留学生センター教授 | 北海学園大学 (経済学部) 教授 |
| | | (任用更新) | |
| 15.10.1 | 崔 恒 | 任期は平成16年 9月30日までとする | 大学院新領域創成科学研究科助教授 |
| | | (昇 任) | |
| 15.10.1 | 高 橋 悟 | 大学院医学系研究科助教授 | 医学部講師 |
| " | 田 口 英 樹 | 大学院新領域創成科学研究科助教授 | 東京工業大学資源化学研究所生物資源部門助手 |
| " | 森 正 樹 | 宇宙線研究所教授 | 宇宙線研究所助教授 |
| " | 森 山 茂 栄 | 宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助教授 | 宇宙線研究所附属神岡宇宙素粒子研究施設助手 |
| " | 戸野倉 賢 一 | 環境安全研究センター助教授 | 大学院工学系研究科助手 |
| | | (配 置 換) | |
| 15.10.1 | 香 川 豊 | 大学院工学系研究科教授 | 生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学研究センター教授 |
| " | 合 原 一 幸 | 生産技術研究所教授 | 大学院新領域創成科学研究科教授 |
| | | (転 出) | |
| 15.10.1 | 市野瀬 英 喜 | 北海道大学エネルギー先端工学研究センター教授 | 大学院工学系研究科助教授 |
| " | 西 村 彦 | 内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官 | 大学院経済学研究科教授 |
| " | 矢 田 哲 士 | 京都大学大学院情報学研究科助教授 | 医科学研究所附属ヒトゲノム解析センター助教授 |
| " | 福 山 秀 敏 | 東北大学金属材料研究所附属材料科学国際フロンティアセンター教授 | |
| | | (転 任) | |
| 15.10.1 | 小 林 和 彦 | 大学院農学生命科学研究科教授 | |
| " | 林 知 更 | 大学院総合文化研究科助教授 | |
| " | 御 厨 貴 | 先端経済工学研究センター教授 | |
| | | (併任解除) | |
| 15.10.1 | 西 田 豊 明 | 工学部電子情報工学科長の併任を解除する | |

| 発令年月日 | 氏 名 | 異動内容（新官職） | 旧（現）官職等 |
|---------|---------|--|---|
| 15.10.1 | 神 崎 亮 平 | （併任解除） 大学院工学系研究科助教授の併任を解除する | 筑波大学生物科学系教授 |
| " | 香 川 豊 | 生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター長の併任を解除する | 生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター教授 |
| 15.10.1 | 坂 井 修 一 | （併 任） 工学部電子情報工学科長 | 大学院情報理工学系研究科教授 |
| " | 鷲 田 清 一 | 大学院人文社会系研究科教授 | 大阪大学大学院文学研究科教授 |
| " | 神 野 直 | 大学院経済学研究科長 経済学部長 | 大学院経済学研究科現代経済専攻財政金融 講座財政金融課題研究分野教授 |
| " | 西 村 清 彦 | 大学院経済学研究科教授 | 内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官 |
| " | 神 崎 亮 平 | 大学院情報理工学系研究科教授 | 筑波大学生物科学系教授 |
| " | 七 尾 進 | 生産技術研究所附属材料界面マイクロ工学 研究センター長 | 生産技術研究所物質・生命部門機能性無機 材料学分野教授 |
| " | 相 澤 秀 昭 | 物性研究所助教授 | 独立行政法人物質・材料研究機構計算材料 科学研究センター第一原理反応グループ |
| " | 梅 原 出 | 物性研究所助教授 | 横浜国立大学大学院工学研究院助教授 |
| " | 山 本 正 幸 | 遺伝子実験施設長 | 大学院理学系研究科教授 |
| 15.9.8 | 伊 藤 泰 男 | （免） 原子力研究総合センター事務代理を免ずる | 原子力研究総合センター教授 |

人 事 異 動 (事 務 官)

| 発令年月日 | 氏 名 | 異動内容 (新官職) | 旧 (現) 官職等 |
|------------|---------|--|--|
| 15. 9 . 30 | 重 盛 和 也 | 辞 職 | 教育学部・教育学研究科専門員 (会計担当) 教育学部・教育学研究科会計掛長 (併) |
| " | 吉 澤 吾 郎 | " | 理学系研究科等 (共同利用掛主任) 理学系研究科等共同利用掛長 (併) |
| " | 望 月 信 子 | " | 社会科学研究所庶務掛長 |
| 15. 10 . 1 | 平 野 浩 之 | 経理部主計課長 | 文部科学省大臣官房会計課専門官 |
| " | 森 進 | 施設部整備計画課長 | 千葉大学施設部企画課長 |
| " | 菊 池 健 | 施設部建築課長 | 施設部整備計画課長 |
| " | 柳 潔 | 施設部建築課課長補佐 (研究所担当) | 施設部建築課専門職員 |
| " | 金 子 博 | 教養学部等教務課課長補佐 (後期課程・大学院担当) | 濡謁原躰趙旻す 兼臣囃 曼往土木掛長 |
| " | 大 谷 晴 美 | 総務部学務課専門員 (企画調査担当) | |
| " | 石 井 好 和 | 経理部契約課専門員 (集中調達担当) | |
| " | 久下谷 清 美 | 教育学部・教育学研究科専門員 (会計担当) 教育学部・教育学研究科会計掛長 (併) | |
| " | 新 井 信 男 | 理学系研究科等 (共同利用主任) 理学系研究科等共同利用掛長 (併) | |
| " | 小 林 誠 | 総務部人事課専門職員 | |
| " | 鈴 木 久 雄 | 施設部建築課専門職員 | |
| " | 齋 藤 修 一 | 施設部建築課専門職員 | |
| " | 内 藤 哲 男 | 施設部建築課工事計画掛長 | |
| " | 鳩 勝 | 施設部建築課設計第一掛長 | |
| " | 川 口 克 己 | 施設部建築課設計第二掛長 | |
| " | 江 川 豊 | 施設部建築課土木掛長 | |
| " | 市 川 賀 一 | 学生部学生課調査掛長 | |
| " | 西 澤 明 生 | 情報基盤センター共同利用掛長 | |
| " | 丹 下 藤 夫 | 情報基盤センターシステム運用掛長 | |
| " | 部 正 規 | 医学部・医学系研究科司計掛長 | |
| " | 成 田 和 彦 | 医学部附属病院医療サービス課物流管理掛長 | |
| " | 荒 井 智 典 | 農学系学術国際課研究協力掛長 農学系学術国際課国際交流掛長 (併) | |
| " | 横 田 恭 | 農学系学術国際課留学生掛長 | |
| " | 宮 田 和 幸 | 教養学部等経理課用度掛長 | |
| " | 門 馬 清 仁 | 社会科学研究所庶務掛長 | |
| " | 山 本 浩 | 生産技術研究所経理課経理第二掛長 | |
| " | 寺 田 浩 一 | 大分大学財務部財務課長 | |
| " | 西野尾 清 司 | 香川大学環境施設調整官 | |
| " | 渡 邊 和 明 | 信州大学施設部建築課長 | |
| " | 石 澤 剛 | 豊田工業高等専門学校会計課長 | |
| " | 藤 井 敏 一 | 北海道大学施設部建築課課長補佐 | |
| " | 小 松 陽 一 | 東京外国語大会計課予算係長 | |

| 発令年月日 | 氏名 | 異動内容(新官職) | 旧(現)官職等 |
|---------|-------|--------------------------|---------|
| 15.10.1 | 落合 恭子 | 東京工業大学附属図書館情報管理課システム管理掛長 | |
| " | 石黒 庸子 | | |
| " | 白石 英司 | | |
| " | 蠅野 明 | | |

障害のある学生への授業や実習の“情報保障”

“私達は身体に障害のあるお客様に快適で安全な旅行が出来るように特別なサービスをしています。世界中で30万人のお客様がこのサービスを利用しています”と国際線の飛行機のモニター画面にテロップが流れた。“東京大学は身体に障害のある学生に他の学生と同じように授業や実習が受けられるように快適で安心して教育が受けられます”と胸を張って言えるであろうか。東京大学の毎年の入学者のうち何らかの障害のある学生はまだ少ない。しかし、毎年のように東京大学に障害のある受験生が合格すると新聞もよく取り上げるが、その後の大学生活については報告することはない。例えば視覚障害の学生はどのように黒板の字やモニターテレビの映像を理解し、さらに実験・実習を受けるのであろうか。一方聴覚障害の学生はどのようにして教官の話しを理解するのであろうか。もし視覚や聴覚にも障害がある場合は教育はどのように援助できるのであろうか。東大に英国の物理学者のホーキング博士が安田講堂で講演した時は入口に階

段がありスロープが無いために車イスを持ち上げて講堂の中に入ってもらったことがあった。実は東京大学の建物や授業や実習は障害のある学生をほとんど想定していない。各学部では何らかの障害のある学生が存在すると、個別に工夫してきた。障害のある学生にも教育について“情報保障”を実現するべく取り組みが始まったが、我が国の大学で先んじて始めたわけではない。むしろ遅いぐらいである。全学のバリアフリー・ワーキング委員会が活動し、昨年より先端研にバリアフリー

支援準備室が出来、教育に関する“情報保障”の実現の努力が始まったところである。東京大学という総合大学こそが、その力量が発揮されるべきところであるが、いよいよというところであり、全学の理解と協力が必要である。さらに次のステップとして、附属病院には東京大学の学生で不厚土憐吳氳養輩槁8 鯨^{xxx}

迹攏窠暖爪濼頸兢駢藿藹菴頼雷蝗夙裸愆霰萑女豫口 宁求